



2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年2月4日

上場会社名 荒川化学工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4968 URL <http://www.arakawachem.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宇根 高司
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 宮下 泰知 (TEL) 06-6209-8500
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	60,534	△0.9	3,097	△26.2	3,475	△22.9	3,544	21.0
2018年3月期第3四半期	61,062	6.0	4,198	3.7	4,505	8.7	2,929	4.5

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 1,952百万円(△59.6%) 2018年3月期第3四半期 4,836百万円(144.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	171.76	—
2018年3月期第3四半期	141.92	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	93,122	56,844	59.1
2018年3月期	89,019	55,696	60.8

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 55,029百万円 2018年3月期 54,123百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期については遡及適用後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	19.00	—	19.00	38.00
2019年3月期	—	20.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	81,500	0.9	4,000	△18.2	4,400	△15.7	4,000	28.6	193.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	20,652,400株	2018年3月期	20,652,400株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	13,251株	2018年3月期	13,250株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	20,639,149株	2018年3月期3Q	20,639,334株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、中国景気の減速傾向が強まる中、米国での堅調な拡大が継続したこともあり、緩やかに回復しました。一方、国内経済は、堅調な雇用情勢を受けた個人消費の回復などによる企業収益の改善や設備投資の増加を背景に緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米中をはじめとする貿易摩擦の深刻化やその影響の顕在化などにより、経済の先行きは、不透明感が増している状況にあります。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2016年度よりスタートしました第4次中期5ヵ年経営計画の方針（「事業の新陳代謝」や「真のグローバル化」など）に沿った重点施策を進め、事業拡大や事業開発の促進に注力してまいりました。業績面では、電子材料関連の事業が堅調であったものの、2017年12月1日に発生しました富士工場爆発・火災事故により、出版等の印刷インキ用樹脂、製紙用薬品などに影響がありました。また、中国の環境規制強化やナフサ価格上昇による原材料コストの増加も収益に大きく影響しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は605億34百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は30億97百万円（同26.2%減）、経常利益は34億75百万円（同22.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、富士工場事故に係る受取保険金18億54百万円を特別利益に計上し、35億44百万円（同21.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を一部変更しており、以下の前年同期比については、前年同期の数値を変更後の区分に組替えた数値で比較しております。また、セグメント区分の売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

<製紙薬品事業>

製紙業界は、eコマース市場（電子商取引）の世界的な成長に伴い、段ボール原紙など板紙の需要が好調に推移しています。このような環境のもと、当事業におきましては、板紙向け紙力増強剤の需要が増加しましたが、原材料価格の高騰による収益性の大幅な悪化や富士工場事故の影響もあり、売上高は159億54百万円（前年同期比6.1%増）、セグメント利益は3億5百万円（同66.9%減）となりました。

<コーティング事業>

電機・精密機器関連業界は、車載向け電子部品が堅調である一方、スマートフォン需要の鈍化がありました。また、印刷インキ業界では出版・広告分野で市場の縮小が続いております。このような環境のもと、当事業におきましては、機能性コーティング材料用の光硬化型および熱硬化型樹脂の収益への寄与や、海外では食品包装向け印刷インキ用樹脂の販売増があったものの、国内の印刷インキ用樹脂は、富士工場事故により生産能力が減少した影響もあり、大幅に販売減となりました。

その結果、売上高は138億31百万円（前年同期比5.6%減）、セグメント利益は8億75百万円（同11.7%減）となりました。

<粘接着事業>

粘着・接着剤業界は、世界的に紙おむつ向け接着剤の需要増加が継続しております。このような環境のもと、当事業におきましては、水素化石油樹脂は、生産拠点を置くドイツのコンビナート停止に伴う一時的な稼働率ダウンによる販売減や原材料価格上昇などによる収益性の低下がありました。また、アジア地域を中心にロジン系の粘着・接着剤用樹脂の販売は前年並みに推移しました。

その結果、売上高は212億16百万円（前年同期比5.8%減）、セグメント利益は15億62百万円（同21.8%減）となりました。

<機能性材料事業>

電子工業業界は、自動車分野やA I、IoTの普及が進む一方、スマートフォンの鈍化に伴い半導体や電子部品の需要に影響が見え始めました。このような環境のもと、当事業におきましては、ファインケミカル製品が好調に推移するとともに、精密部品洗浄剤および精密研磨剤が堅調に推移しました。また、第4次中計における「みつける」「そだてる」の促進に注力する中、次世代通信技術「5G」に対応する低誘電ポリイミド樹脂の実績化が進みました。

その結果、売上高は93億12百万円(前年同期比8.0%増)、セグメント利益は6億77百万円(同22.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ41億2百万円増加し、931億22百万円となりました。主な要因は、投資有価証券が20億34百万円減少した一方、たな卸資産が10億55百万円、有形固定資産が44億92百万円増加したことによります。

負債は、短期借入金が6億13百万円、賞与引当金が6億1百万円減少した一方、長期借入金が39億10百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ29億55百万円増加し、362億78百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金が減少した一方、利益剰余金が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ11億47百万円増加し、568億44百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、2018年11月1日に公表しました業績予想に修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,471	8,710
受取手形及び売掛金	28,342	28,500
電子記録債権	1,829	2,146
商品及び製品	8,051	8,838
仕掛品	893	1,043
原材料及び貯蔵品	7,272	7,390
その他	1,420	1,241
貸倒引当金	△123	△125
流動資産合計	56,158	57,747
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,708	7,565
機械装置及び運搬具（純額）	6,181	5,644
土地	5,195	5,144
建設仮勘定	1,139	6,321
その他（純額）	466	507
有形固定資産合計	20,691	25,184
無形固定資産		
のれん	824	613
その他	379	408
無形固定資産合計	1,204	1,021
投資その他の資産		
投資有価証券	8,806	6,771
退職給付に係る資産	1,538	1,836
繰延税金資産	291	247
その他	401	380
貸倒引当金	△72	△67
投資その他の資産合計	10,964	9,168
固定資産合計	32,861	35,375
資産合計	89,019	93,122

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,043	12,835
短期借入金	6,269	5,655
未払法人税等	642	492
未払消費税等	135	98
賞与引当金	1,272	670
役員賞与引当金	80	50
修繕引当金	—	90
設備関係支払手形	214	129
その他	4,993	5,011
流動負債合計	25,651	25,034
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	—	3,910
繰延税金負債	1,724	1,419
修繕引当金	45	—
退職給付に係る負債	328	331
資産除去債務	297	296
その他	276	285
固定負債合計	7,671	11,243
負債合計	33,323	36,278
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,343	3,343
資本剰余金	3,564	3,564
利益剰余金	41,068	43,808
自己株式	△13	△13
株主資本合計	47,962	50,702
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,880	2,450
為替換算調整勘定	1,434	1,099
退職給付に係る調整累計額	847	777
その他の包括利益累計額合計	6,161	4,327
非支配株主持分	1,572	1,814
純資産合計	55,696	56,844
負債純資産合計	89,019	93,122

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
売上高	61,062	60,534
売上原価	46,950	47,071
売上総利益	14,111	13,462
販売費及び一般管理費	9,913	10,364
営業利益	4,198	3,097
営業外収益		
受取利息	7	13
受取配当金	155	164
不動産賃貸料	85	80
為替差益	56	135
その他	186	146
営業外収益合計	491	540
営業外費用		
支払利息	121	111
その他	62	50
営業外費用合計	184	162
経常利益	4,505	3,475
特別利益		
固定資産売却益	0	5
投資有価証券売却益	151	7
受取保険金	—	1,854
為替換算調整勘定取崩益	285	—
特別利益合計	437	1,866
特別損失		
固定資産除売却損	38	78
爆発火災事故に係る損失	156	—
関係会社事業整理損	257	—
特別損失合計	452	78
税金等調整前四半期純利益	4,491	5,264
法人税、住民税及び事業税	879	1,059
法人税等調整額	289	398
法人税等合計	1,168	1,457
四半期純利益	3,322	3,806
非支配株主に帰属する四半期純利益	393	261
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,929	3,544

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	3,322	3,806
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,370	△1,429
為替換算調整勘定	169	△354
退職給付に係る調整額	△25	△69
その他の包括利益合計	1,514	△1,853
四半期包括利益	4,836	1,952
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,510	1,710
非支配株主に係る四半期包括利益	325	241

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	製紙薬品	コーティング	粘接着	機能性材料	計		
売上高							
外部顧客への売上高	15,037	14,658	22,528	8,624	60,848	214	61,062
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	35	35
計	15,037	14,658	22,528	8,624	60,848	249	61,097
セグメント利益	921	991	1,998	555	4,466	22	4,489

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産仲介等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,466
「その他」の区分の利益	22
全社費用の配賦差額(注)1	1
コーポレート研究開発費用(注)2	△273
営業外損益(注)3	△18
四半期連結損益計算書の営業利益	4,198

- (注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。
 2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。
 3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	製紙薬品	コーティング	粘接着	機能性材料	計		
売上高							
外部顧客への売上高	15,954	13,831	21,216	9,312	60,316	218	60,534
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	27	27
計	15,954	13,831	21,216	9,312	60,316	245	60,561
セグメント利益	305	875	1,562	677	3,421	22	3,443

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産仲介等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,421
「その他」の区分の利益	22
全社費用の配賦差額(注) 1	78
コーポレート研究開発費用(注) 2	△256
営業外損益(注) 3	△167
四半期連結損益計算書の営業利益	3,097

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。

3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を一部見直し、従来の「機能性材料」に含まれる一部製品の報告セグメントを「粘接着」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分に組替えた数値を記載しております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。